

(家庭数配布)



最近、嬉しかったこと

ある日、ある担任の先生が少し遅れて出勤してきました。教頭先生から聞いた話によると、体調が少々悪かったとのこと。(先生も人間ですから、そんなこともあります。)連絡を受けた教頭先生は休むことも提案したそうですが、その先生は「クラスの子がかわいいから、遅れてでも行きます。」と伝えたようです。私はこの担任の先生の気持ちを聞き、とても嬉しくなりました。やはり担任の先生って、自分のクラスの子どもに対しては、特別な感情を持ってしまうものなのです。それが担任というものなのではないでしょうか。担任の先生と子どもとの間には、1年の間に様々なかかわりがあります。その中で、ともに成長していってくれればと私は思っています。

(なお、一言付け加えておきますが、私は、職員に対して「体調が悪くても出勤しろ。」と強要しているわけではありません。それではパワハラ校長になってしまいます。職員も体調が悪い時には休ませていただくこともありますので、保護者の皆様、ご理解をお願いします。)

もう1つ、これは私自身のことです。先日、いきなり暑くなった日がありました。熱中症も怖かったので、25分休みになったところで「運動場に行く時には帽子と水筒を持って行きましょう。」と放送をかけたのです。その後、ある子が私に声をかけてきました。「校長先生は優しいの？」と。自分で「優しいです。」とも言いづらいので、半分冗談で「そんなに優しくはないよ。」と返しました。すると、「そんなことはない。あんな放送をするんだから優しいと思う。」と言ってくれました。私は単純に熱中症予防のために放送をただけなのですが、「そう思ってくれているんだ。」と嬉しくなりました。

学校って、子どもどうしのつながりも大切です。でも、子どもと先生のつながりも欠かせないです。最近、先生という職業について「ブラックなのでは？」とよく言われています。正直言って、難しい仕事時にはあります。でも、私のこと言えば、30年以上この仕事を続けてこれたのは、節目節目での子どもたちとのつながりがあったからこそだと思っています。先生という



立場にありながら情けないことですが、心が折れそうになった時、子どもたちからの期待の言葉がどれだけ支えになり、「やっぱり頑張らなあかんよな。」と思えたことか。本当に子どもたちに感謝です。が、感謝ばかりでは許されません。これからも子どもたちを励ませる自分でありたいし、本校職員にはそんな先生になってくれることを望んでいます。(訂正です。自分のことはさておき、本校職員はそんな先生ばかりでした。)

◇校長のつぶやきコーナー

私、つぶやきたいことがたくさんあるのです。お忙しい中申し訳ありませんが、少々お付き合いください。今回は“鍛え”です。

時には“鍛え”も必要なのでは？

春には花の種を植えたり、5年生の理科では発芽実験をしたり…、その様子を見て、ふと思い出したことがあります。

以前、私が理科の担当をしていた頃、インゲンマメの種を室内で発芽させ、その後、屋外に移して育てようとしたことがあります。ところが、茎がヒョロヒョロで、結局育ちませんでした。一方、始めから屋上で発芽させたものは、その後、たくましくぐんぐん育っていきました。多少の個体差はあるのですが、もとの種は同じだったはず。違いは何だったのでしょうか。室内は風が全く吹きませんから、茎はヒョロヒョロで十分です。しかし、屋上で発芽させたものは、始めから強い風にさらされます。その風に耐えるため、茎を太くたくましくする必要があったのです。

人間にも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。子どもたちにとって、快適な心地よい環境を提供することを否定するものではありません。しかし、あまりにもそのような環境ばかりを提供することが、必ずしも子どもの成長につながるとは思えません。子どもたちが苦痛を感じるいじめや、とてつもなく大きなプレッシャーの中に子どもを置くことは避けなければならないと思います。しかし、時にはある程度の“鍛え”も必要なのでは？と思います。子どもたちもいずれは学校を卒業し、社会へと出ていきます。社会には、困難なことが数えきれないほどあります。その時のために、困難を乗り越える力をつけておくことを求めてもよいのではないのでしょうか。

以上、「時には“鍛え”も必要なのでは？」でした。

パンダの筋トレ



ボクも鍛えています